税の存在と考え方

恵庭市立恵庭中学校　三年　野月　奏音

「大丈夫か。救急車呼ぶから動かすなよ。」

私は昨年の夏、自転車で転倒し骨折をした。転倒した際、近隣の住民の方に救急車を呼んでいただいた。当時はただただ焦りの気持ちでいっぱいで、何も考えられなかったが、果たして救急車が電話をすればお金がかからずに利用できることは当たり前なのだろうか。

私は、このことに疑問を持ち、世界では救急車を利用するのにお金がかかるのかについて調べた。そこでわかったのが、救急車を利用するのにお金がかからないという国は少数派だということだ。さらにお金がかかる国では、最大で二十一万円ものお金がかかるということもわかった。私はとても驚いた。「救急車を利用するのにはお金がかからない」という固定概念が破られたからである。

私は、さらに疑問を抱いた。なぜ日本では救急車を利用するのにお金がかからないのだろうか。調べた結果、その理由には税金が関わっていることがわかった。救急車などの公共サービスには税金が使われていたのだ。私は、税金が具体的にどのように使われているのかを知らなかったため、救急車などの身近なものに使われていることを知り、税金についてより興味を持った。もしも救急車に税金が使われなかった場合、どのようになるのか。日本で救急車が一回出勤するのに必要な費用は四万五千円である。病院にすぐに運ばないといけないような状況で、救急車を呼ぶのにお金がかかると、呼ぶことに迷いが生まれてしまい、時間がかかることで、命に関わる場合もあるのではないか。このようなことが起こらないのは、税金のおかげである。しかし、私たちは「救急車を利用するのにはお金がかからない」ことを当たり前にしているせいで、現在全国での救急車の出勤回数は五秒に一回という速いペースになっている。このことから救急車が足りないという問題も生まれている。私は、救急車は「税金のおかげで利用できるもので、本当に必要な場面で利用するもの」と考えるべきだと思う。

日本では救急車以外にも、ごみ収集や医療費、交番などにも税金が使われている。どれも身近に存在していることである。だが、なぜお金がかからずに利用できているのか、それは当たり前なのかを考えることは少ないだろう。これらのことは、税金が存在する上で成り立っているものであり、世界では私たちが当たり前に利用しているものを当たり前に利用することができない人々もたくさんいる。だからこそ、税金が存在する上で成り立っていることを知り、当たり前だと思わずに大切にしていくべきだと思う。